

危機に瀕する世界のコメ

- - その現状と課題、そして可能性 - -

主催 催 : 日本学術会議・農村計画学研究連絡委員会
開催日 催 : 世界のコメ学際研究グループ (代表: 伊東正一 鳥取大学教授)
時 : 2005年 3月 14日(月) 午前 10時~午後 5時(受付 午前 9時)・・・第一の部
場 所 : 東京都港区六本木7-22-34 日本学術会議ビル (TEL: 03-3403-1056)
最寄の駅: 地下鉄千代田線・乃木坂駅

参加料 : 無料
資料代 : 1部 1,000円(希望者のみ)
その他 : 立食交流会(午後 5時~7時: 参加費 5,000円/人)・・・第二の部
申込み先及び : Fax、ハガキ又はE-メールで、住所、氏名、職業、Fax番号(又はメールアドレス)をご記入の上、お申し込み
問い合わせ先 : 下さい。
〒680-8553 鳥取市湖山町南4-101 鳥取大学農学部農業経営情報科学講座
Tel/Fax : (0857) 31-6731 E-メール: agrinfo@muses.tottori-u.ac.jp
(ホームページ: <http://worldfood.muses.tottori-u.ac.jp>もご覧ください。)

申込みの〆切り: 2005年 2月 28日(月)(先着 150人)

【趣旨】

私たち「世界のコメ学際研究グループ」は1991年から科学研究費により、当初は世界のジャポニカ米の現状と潜在性を中心に2000年度まで研究を継続してきました。その後3年間は各自の研究時間を置き、2004年度から世界のコメ研究を再開しております。テーマは「世界におけるコメの消費拡大・普及戦略に関する学際的総合研究」で、コメをめぐる消費減退の現状と消費拡大のための戦略を追究していきます。

研究の成果をいち早く一般社会に公開しようと、毎年1回、過去9回にわたり、全国各地で報告会・シンポジウムを開催してまいりました。学際研究という、社会科学の専門家だけでなく自然科学の専門家も一緒に現地調査を重ねる中で、互いに議論を闘わせ、現状と今後の見通しをより正確に把握し、シンポジウムではその情報をお伝えしながら、参加者の皆様からもご意見・情報を賜りたいと思っております。

今回の研究再開におきましてもこの方法を継続し、これまでの流れを汲んで、第10回という形で東京で開催します。参加者の皆様の活発な情報交換がなされ、実りある報告会・シンポジウムにしたいと思っております。年度末のご多忙な時期ですが、万障お繰り合わせの上、ご参加いただければ幸いです。

今回の開催は、日本学術会議の農村計画学研究連絡委員会に主催していただき、会場提供等のご支援をいただきました。

なお、本研究には筑波大学、東京大学、信州大学、京都大学、龍谷大学、神戸大学、九州大学、鳥取三洋電気KK、鳥取大学の機関の教員または研究員が参加しております。

【今年度の報告のポイント】

世界のコメの消費減退は、いまや危機的状況に差しかかっていると言っても過言ではありません。アジア地域でのコメ消費の減少傾向は、日本をはじめ周辺各国でも深刻で、一人当たり消費量減少が下げ止まらないのが実情です。

台湾では過去40年間で一人当たりのコメ消費量が160kgから50kgへと3分の1に激減。その間、日本は半分に、韓国もここ20年間急減しています。中国でも1990年をピークに着実に減少し、そのスピードは台湾や日本ほどではありませんが、このままでは確実に消費量が減少していきます。世界の人口が伸びればコメの消費も伸びる...という楽観的な時代ではなくなってきたのです。

つまり、それだけ作物間競争が世界的に厳しく、畜産物の消費量が増大する中では、コメという主食的な食べ物は減る一方となります。加えて、アジアは世界のコメの9割を生産・消費し、主に主食として消費されています。だからこそ、コメの消費減退はアジア農業の衰退をも意味しています。

今回の報告会・シンポジウムでは世界、日本、韓国、タイにおけるコメ消費を取り巻く現状を報告します。さらに、消費拡大の糸口となる、発芽玄米の効用、コメ加工品の開発、炊飯器の性能改良の可能性などについても報告します。

第二部として、好評の立食交流会を開催します(午後5時~)。参加者の皆様が、より緊密に情報交換や懇親を深めていただく主旨のもので、初めての方でもお気軽にご参加ください。

(このポスターをご掲示いただき、広く参加を呼びかけていただければ幸いです。)

【報告の主な内容】

1. 危機に瀕する世界のコメ
2. 日本、韓国、タイにおけるコメ消費の現状と今後の見通し
3. 発芽玄米の魅力とコメ消費拡大への貢献
4. おいしいご飯が炊ける炊飯器の開発: 生産現場からの試み
5. タイ・ベトナムにおけるコメ加工品開発

【報告者】

伊東正一(グループ代表、鳥取大学教授)
加古敏之(神戸大学教授)
Han, Doo Bong(韓国・高麗大学教授)
Isvilanonda, Somporn(タイ・カセサート大学助教授)
茅原紘(信州大学教授)
下澤理如(鳥取三洋電気KK・事業推進部長)
石川行弘(鳥取大学教授)